

価値創造の軌跡

OKIは創業から140年以上にわたり、「進取の精神」をもって、社会のニーズに応える先進的な商品・サービスを数多く送り出してきました。そしてこの先も、社会課題の解決に寄与する価値創造を通じて、人々の快適で豊かな明日を実現していきます。

OKIの歴史については以下をご覧ください。
 ・OKIのあゆみ
<https://www.oki.com/jp/profile/history/>
 ・社史「進取の精神—沖電気120年のあゆみ」
<https://www.oki.com/jp/profile/history/120y.html>
 ・創業130周年記念コラム「時代とOKI」
<https://www.oki.com/jp/130column/>

社会の大丈夫をつくっていく。

<p>OKIが提供した価値</p>	<p>1881~</p> <p>時代の先駆者として 国内通信網の整備に貢献</p>	<p>1950~</p> <p>戦後の通信網復興に尽力 官民をあげた国産コンピューター開発 プロジェクトに参画し、 総合通信メーカーとして時代をリード</p>	<p>1980~</p> <p>創業100周年を迎え、 高度情報化社会に必要な システム・商品をグローバルに提供</p>	<p>2000~</p> <p>独自技術をもとに ニーズに応える商品・サービスを開発、 広義の社会インフラを支える</p>	<p>2010~</p> <p>防災や減災、非接触・非対面などの 新たな社会要請に応える商品を開出</p>
<p>1881年(明治14年) 沖牙太郎が明工舎を創業</p>  <p>沖牙太郎が明工舎を創業した明治初期、日本では郵便、電信、電話と、現代につながる情報通信の仕組みが徐々に実用化されていきました。この通信の黎明期に、牙太郎は電信・電話の将来性を認識し、その発展に尽力。電話がアメリカから持ち込まれた4年後には、日本初の国産電話機の開発に成功します。</p> <p>自らの技術と発想力で道を切り拓いた、この牙太郎の「進取の精神」は脈々と受け継がれ、今日のOKIがあります。</p>	<p>1881 沖牙太郎が明工舎を創業。国産初の電話機を開発し、内国勸業博覧会に出展</p> <p>1896 国産初の直列複式交換機を東京浪花町分局に納入、稼働開始</p> <p>1902 国産初の磁石式並列複式交換機を長崎局に納入</p> <p>1918 純国産の共電式交換機を高輪局に納入</p> <p>1930 自動交換機の第一号機を中野局に納入</p>  <p>明工舎の宣伝用ポスター</p>  <p>磁石式並列複式交換機</p>	<p>1950 「復興のシンボル」ともいわれた4号形電話機の量産を開始</p> <p>1953 ページ式印刷電信機「テレタイプライター」を発売</p> <p>1961 国産初のコアメモリを使用したコンピューターを発売</p> <p>1962 ホンジュラスより通信網工事を受注</p> <p>1963 600形電話機の量産を開始。1971年までに累計390万台を出荷</p> <p>1969 ミニコンピューター「OKITAC-4300」を発売</p> <p>1971 D10形電子交換機を電電公社に納入</p> <p>1975 アメリカベル研究所とセルラー自動車電話の共同開発契約締結</p> <p>1976 デジタル式感熱ファクシミリ「OKIFAX7100」を発売</p>  <p>テレタイプライター</p>  <p>600形電話機</p>  <p>OKITAC-4300</p>	<p>1980 パーソナルコンピューター「if800シリーズ」を発売</p> <p>1981 世界初のLEDプリンターを開発</p> <p>1982 世界初の紙幣選流機能付きATM「AT-100シリーズ」を発売</p> <p>1985 オキ アメリカ社オキ テレコムグループで自動車・携帯電話の一貫生産を開始</p> <p>1986 日英自動翻訳システム「PENSEE」を発売</p> <p>1996 コンピューター・テレフォニー統合システム「CTstage」を発売 国内初のVoIPシステムを発売</p> <p>1998 OKIの主要生産拠点でISO14001を取得</p>  <p>LEDプリンター</p>  <p>VoIPシステム</p>  <p>紙幣選流型ATM</p>	<p>2000 世界初、ITS路車間通信システム用ミリ波帯光ファイバー無線伝送システムの開発に成功</p> <p>2002 EMS事業を開始</p> <p>2003 次世代航空通信ネットワークルーターをアメリカ連邦航空局へ納入</p> <p>2005 リアルタイム地震防災システムを開発</p> <p>2006 世界初の異種材料間の薄膜接合技術「CFB(クリスタル・フィルム・ボンディング)」を実用レベルで量産化に成功</p> <p>2008 業界初5年間無償保証のプリンター「COREFIDO」シリーズを発売</p> <p>2009 複数国紙幣の取り扱い可能な全世界市場向け紙幣選流型ATM「ATM-Recycler G7」を開発</p>  <p>COREFIDO</p>  <p>ATM-Recycler G7</p>  <p>初期のEMS工場</p>	<p>2010 国連グローバル・コンパクトに参加</p> <p>2014 920MHz帯マルチホップ無線ネットワークを利用した「河川監視システム」を開発</p> <p>2019 TCFDへの賛同を表明 人手不足の解消を実現するサービスロボット「AIエッジロボット」を開発</p> <p>2020 非接触での画面操作を可能にする「ハイジニック タッチパネル」を開発</p> <p>2022 大規模生産施設として国内初の「ZEB」認定工場「本庄工場H1棟」竣工 インフラモニタリングサービス「monifi」とゼロエナジー高感度カメラを同時発売</p> <p>2023 AI配送計画最適化サービス「LocoMoses」の販売開始</p>  <p>AIエッジロボット</p>  <p>ゼロエナジー高感度カメラ</p>  <p>本庄工場H1棟</p>
<p>時代背景・社会課題</p>	<p>産業近代化の幕開け 関東大震災からの復興</p>	<p>戦後の復興 高度経済成長期</p>	<p>グローバル化の進展 インターネットの普及と高度情報化</p>	<p>変化する社会秩序、 多様化する価値観とニーズ 環境・人権などへの意識の高まり</p>	<p>相次ぐ自然災害、 顕在化するさまざまな社会課題 SDGsの達成に向けて</p>